

大会名称: **第6回全国障害者スポーツ大会(のじぎく兵庫大会)**  
**バスケットボール競技**

開催場所: **グリーンアリーナ神戸Bコート**

試合区分: **No. 127 男子 準決勝**

主審: **永山 忠利**

期 日: **2006(H18)年10月15日(日)**

副審: **宮里 両**

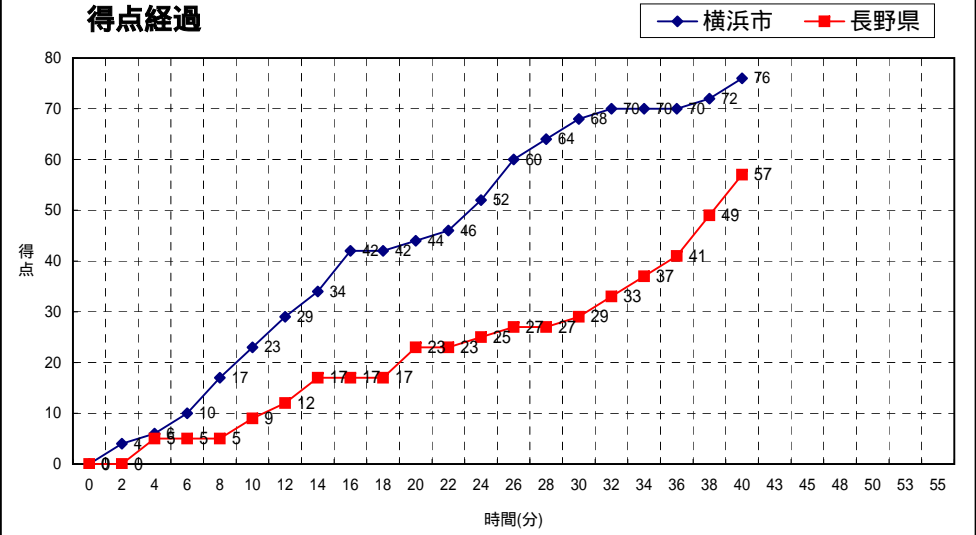
開始時間: **15:15**

終了時間: **16:47**

横浜市						長野県									
76						57									
23 -st1- 9															
21 -2nd- 14															
24 -3rd- 6															
8 -4th- 28															
-OT1-															
-OT2-															
-OT3-															
No.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F	No.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F
4	*	津恵 祥平	11	3	1	0	0	4		林 成憲	-	-	-	-	-
5	*	守屋 拓真	15	0	7	1	3	5	*	唐澤 規彦	4	0	1	2	5
6		佐藤 浩	4	0	2	0	0	6	*	平松 裕	18	0	8	2	2
7	*	中野 貴文	22	0	11	0	3	7	*	関谷 雄治	2	0	1	0	0
8	*	長谷部 晃司	0	0	0	0	1	8	*	守屋 章	4	0	2	0	3
9		代 淳太郎	0	0	0	0	1	9		三浦 真俊	0	0	0	0	2
10		藤巻 光	2	0	1	0	3	10		白鳥 健司	2	0	1	0	1
11	*	高木 昂	2	0	1	0	2	11		北澤 和也	3	0	1	1	2
12		小管 直昭	0	0	0	0	3	12		宮下 良成	0	0	0	0	0
13		佐藤 慎太郎	4	0	2	0	2	13	*	百瀬 剛	14	0	6	2	1
14		田代 雅士	14	0	7	0	1	14		藤本 俊彦	6	0	3	0	3
15		森岡 優	2	0	1	0	0	15		金指 勇二	4	0	2	0	2
コーチ 早川 忠雄								コーチ 五味 秀彦							
合計			76	3	33	1	19	合計			57	0	25	7	21

S: スターター PTS: ポイント 3P: 3ポイントシュート 2P: 2ポイントシュート FT: フリースロー F: ファール

**得点経過**



**ゲームレポート**

第1ピリオド、横浜市はマンツーマン、長野県は2-3のゾーンディフェンスでスタートする。横浜市は、#7中野のリバウンドシュートで先制し、さらに#5守屋のバスケットからの速攻で加点する。一方、長野県も#13百瀬の速攻や、1-4オフェンスから#6平松が得点する。しかし、高さに勝る横浜市は#5守屋、#7中野がリバウンドを制し優位に立つ。長野県#13百瀬が終了間際にミドルシュートを決めるも、23-9と横浜市が14点リードで終了した。

第2ピリオド、長野県はディフェンスで相手にプレッシャーを与え、何度も速攻のチャンスを作り、#6平松が得点する。開始3分間は、互角の争いが続いた。しかし、横浜市はここでも高さを生かした#5守屋、#7中野のブロックショットやリバウンドで、リードを21点に広げ前半を終える。

第3ピリオド、横浜市は2-3ゾーンディフェンスに変え、長野県にペースを渡さない。横浜市は、#4津恵がゲームをコントロールし、次々とチャンスメイクをする。横浜市のリードが27点となった残り6分、長野県はタイムアウトを取り、反撃の糸口を探る。長野県は相手のゾーンディフェンスに対し、アウトサイドのシュートや、#6平松のポストプレイに頼るが、得点が決まらない。横浜市は、攻撃の手を緩めることなく、39点をリードして第4ピリオドへ。

第4ピリオド、横浜市はオールメンバーチェンジ、長野県はマンツーマンにディフェンスを変える。長野県は、#13百瀬が果敢にルーズボールを奪い、気迫を見せる。それに答えるように、長野県#6平松がシュートを決め、#5唐澤がリバウンドを取り、長野県のペースとなる。しかし、横浜市は大量のリードを確実に守り、76-57で決勝へ駒を進めた。

担当者: 山村 孝史(兵庫県バスケットボール協会)

(財)日本障害者スポーツ協会